

指導部で記入 → 

申請受付日
／

【様式 3 - 1】

(所属(市費)コード 6 7 2 4 8 8)

大阪市立新箕中学校 平成 27 年度 校長経営戦略予算【加算配付】配付申請書

年度目標	達成 状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 27 年度末の生徒アンケートで「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を 65%以上にする。 (カリキュラム改革)</li> <li>平成 27 年度末の生徒アンケートで「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を 65%以上にする。 (カリキュラム改革)</li> <li>平成 27 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや問題行動について、解決に向けて対応している割合を 100%にする。 (カリキュラム改革)</li> <li>平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を 65%以上にする。 (カリキュラム改革)</li> <li>平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革)</li> <li>平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を 70%以上にする。 (カリキュラム改革)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
<p>取組内容①【各教科の指導力の向上】</p> <p>研究授業を年間で一人 1 回以上行い、教員一人一人の授業力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>研究協議をともなう研究授業を年間 9 回以上、また、研究授業を年間に 20 回以上実施する。</p>	
<p>取組内容②【いじめ・問題行動への対応】</p> <p>相談活動を充実させ、生徒の変化等の早期発見・早期対応に努め、未然防止に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年間に 2 回以上カウンセリング活動を実施したり、毎週金曜日に「一週間の振り返り」を実施し、実態把握を行い未然防止、早期発見・指導に努める。</p> <p>生活実態調査を実施し、生徒理解に努める。</p>	
<p>取組内容③【規範意識の育成】</p> <p>「遅刻、服装、忘れ物」等の指導を通して、自律した生徒の育成を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>校内アンケートで「学校のルールを守っている」と答える生徒の割合を昨年度より増やす。</p> <p>授業規範について、講師を招聘して研修会を年 1 回実施する。</p>	
<p>取組内容④【大阪らしさを活かした取組】</p>	

大阪市内の施設や史跡を実際に訪れることで、「郷土大阪」を愛する心を育てる。	
指標	
フィールドワークや調べ学習を行い、能動的な学習態度を養う。	

度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

**◆加算配付申請内容に対応する項目を記載※運営に関する計画再掲**

大阪市内 新巽 中学校 平成 27 年度 校長経営戦略予算【加算配付】配付申請書

配付申請額 1,109,784 円

## ◆費目別予算(※円単位)

8-1 報償金	11-1 消耗品費	11-4 印刷製本費	11-6 建物修繕料	12-1 通信運搬費	12-4 手数料	12-7 損害保険料
	250,800					

13 委託料	14-1 使用料	14-2 船車賃借料	18-2 校用器具費	18-3 図書購入費	合計
			858,984		1,109,784

## ◆取組内容・予算内訳

取組内容①【各教科の指導力の向上】		
研究授業を年間で一人1回以上行い、教員一人一人の授業力の向上を図る。(カリキュラム改革)		
予算内訳		
予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
18-2	ビジネスプロジェクター EB-436WT	250,000
18-2	手動巻き上げスクリーン 3048×2286	299,000
18-2	ポータブルワイヤレスアンプ PE-W610CD-MB	232,984
18-2	デジタルHDビデオカメラ HDR-PJ670	77,000
11-1	リモコン三脚 VCT-VPR1	11,000
11-1	デジタルカメラ DSC-RX100×3	147,000
11-1	ワイヤレスマイク WM-P970 @46,440×2	92,880

大阪市立 新巽 中学校 平成 27 年度 校長経営戦略予算【加算配付】配付申請書  
(補足説明資料)

取組内容① 【各教科の指導力の向上】

長年教育は、教師が一方的に生徒に知識を伝達する一斉画一的な授業形式である。少子化の影響もあって、一学級あたりの生徒数が 30 数人となった今、生徒一人一人の理解度に応じ個別化の観点をもった授業の組み立てが必要である。

本校では、基礎的・基本的な内容の確実な定着と「分かる喜び、できる楽しみを実感できる授業」をめざした、授業の工夫・改善に取り組みを進めている。具体的には生徒一人一人の習熟度に対応した授業や I C T 機器の活用した授業方法などの授業研究にも積極的に取り組んでいる。これからの教育が課題研究やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど、生徒の能動的な学習を取り込んだ授業を推進することで、自ら課題を見つけ、それを解決する能動的な学びに向かうことで、自立的な学習態度を身につける「生きる力」を育む教育へと取り組みを展開する。

また、本校では学力を「授業力」と「学習力」に分けて取組を考えている。

「授業力」は生徒アンケートで「授業はわかりやすく楽しい」「授業内容・方法を工夫している」。保護者アンケートでは「先生は授業を分かりやすくするための工夫をしている」

「学習力」は「まじめに授業に取り組んでいる」「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」保護者アンケートには「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている」などの調査項目によって、学力の向上に取り組んできた。

昨年度には、タブレット端末を教育センターより借り受け、数学、理科、社会の三教科で授業改善のための活用を研究を進めてきた。

中 2 の「数学」では図形の角度を求める問題の解き方を生徒が自分の席から発表を行った。別の「数学」の授業では「大阪は住みやすいか？」の課題を班ごとに街中を調べ、統計的にグラフ化した結果を班員全員でプレゼンテーションを行った。聞いている仲間がその説明に質問をしたりうなずいたりしていた。自分たちが発表するときと、クラスの仲間の発表を聞くときの、切り替えを大事にさせる指導も行っている。

我々教師は一人一人の生徒の意見を徹底して褒めるようにしている。それによって人の話を真摯に聞く力も高まってきている。班のなかでプレ・プレゼンの機会も設けて、表現のスキルを高めたり、プレゼンテーションの力を育てる工夫もしている。

このようにタブレット端末をプロジェクタと接続することによって、より分かりやすい教材の提示が可能となり、映像を利用することによって模擬実験や観察なども容易となる。

また、生徒一人一人が自分の考えをまとめ、発表する機会がふえることによって、言語活動の充実や表現能力の育成を図っている。